

令和6年6月30日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立梁田小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連付けた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年から英会話学習を実施し、ALTやEAAによる英語の発音やリズムに触れ、楽しく活動することにより、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっている。
- ・第1学年から英会話学習を実施し、身近な場面での英会話を使って練習することにより、英語の表現に慣れ親しみ、コミュニケーションをする楽しさを味わえるようになってきた。また、具体物を用意し、見たり触ったりする活動を通して、意欲や理解の促進につながり、英語に慣れ親しむことができ、日常生活で使われる簡単な英会話を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。
- ・英会話学習モデル校として授業研究に取り組み、異学年交流授業では、学年の違う児

童たちが助け合って、積極的にコミュニケーションを取り合う姿が見られたり、他校との交流授業では、プレゼンテーション後のフリータイムの際、積極的に英語で質問したりする児童の姿が見られた。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- 英会話学習を楽しんで行っている児童が多く見られる。
- EAA や ALT との活動で、ネイティブの英語を聞く機会が増えた。また、EAA や ALT と給食の時間に給食を一緒に食べたり、休み時間に一緒に遊んだりして交流を楽しんでいる。
- 「英語チャレンジ DAY」(5・6年生)の実施により、英語を使う体験を通して、英語による実践的なコミュニケーションの基礎的な能力を培うことにつながっている。

<保護者>

- 第1学年からの英会話学習を実施することにより、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっていると感じる保護者が増えている。
- 第1学年からの英会話学習を実施することにより、英語に慣れ親しむことにつながっていると感じる保護者が多くいた。
- 第1学年からの英会話学習を実施することにより、外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっていると感じている。

3. 実施の効果及び課題

<成果>

- 令和5年度英会話学習モデル校として授業研究に取り組んだことにより、ICTを活用した授業や異学年交流及び他校との交流授業を取り入れた授業を通して、積極的にコミュニケーションを取り合う児童の姿が多く見られるようになった。また、英会話だけではなく、ジェスチャーを取り入れながら、相手に説明したり気持ちを伝えたりしようとする姿も見られた。児童に目的意識をもたせる工夫を取り入れた成果である。

<課題>

- 児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとするために、英会話学習への意欲を高め、会話をすることの必然性をもたせること、英語に対して自信をもてない児童への支援方法を工夫することが課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- 児童にとって楽しい言語活動となるよう、必然性のある場の設定、児童が学びたいと感じるような教材との出会い、表現内容の理解、英語を活用してコミュニケーションを図りたいと思えるような活動の工夫を図る。更に、相手に英語で伝えるだけではなく、相手の話に相づちをうったりうなずいたりするなどの非言語コミュニケーションの大切さも伝えていく。